

## これまでの審議結果の概要等

～ 第 1 ～ 4 回沖縄県振興審議会総合部会での主要意見 ～

### 【ビジョンの基本理念】

ビジョンとは何か。

- ・「ビジョンとは何か」を委員間で認識を共有することが必要。
- ・ビジョンは、県民の目標を言葉で表すことが任務。
  - § 目標と現実のギャップが問題であり、問題解決を含めて、目標を表現していくことが必要。
- ・あるべき姿を想定して、そこに向かって現実のベクトルを修正することが策定意義。
- ・リスクも含めた価値観を共有することが大切。
  - § 将来の沖縄を描く上で、変えてはならないもの、目指すべきものは何か、ということを中心に県民に問いかけてみてはどうか。
  - § 沖縄が守るべきもの、譲れないものとは何か。  
平和、命どう宝、ホスピタリティ etc

ビジョンは、どうあるべきか。

- ・理想と現実を兼ね備えた実現可能なビジョンをつくるべき。
- ・ビジョンは「シンプル」「クール」「ハピネス」であるべき。
- ・ビジョンには、「思想性」と「宣言的要素」の 2 つが大事。
  - § 県民に対するビジョンという「思想性」と、外部の目を意識した「宣言的要素」。
  - § 県外に対して、どういう人材に来て欲しいかメッセージを発信。
  - § ビジョン策定後は、県民に伝わるよう工夫が必要。
- ・次世代とともに、あるべき姿を取り戻すとの視点も大切。
  - § 先人が残したモノを大切に受け継ぎ、未来を考えていくという視点。
  - § 県民全体で 20 年後の沖縄の約束を持つという視点。

策定プロセスは、どうあるべきか。

- ・どのようにビジョンを策定するか、というプロセスが大事。
- ・市町村や地域の計画を踏まえる等、ボトムアップでのビジョン策定が重要。
  - § 良いトップダウンとボトムアップのマッチングが重要。
- ・本来は、シンポジウムやフォーラムをもっと細かく実施し、地域住民と対話しながら策定すべき。

#### 【県審議会総合部会の役割】

部会の役割として、県民のコンセンサスを得られる形で、ビジョンをどうまとめていくべきか。どのような方法で検討していくべきか。

「将来のあるべき沖縄の姿とは」「どのような沖縄にしていきたいのか」等、ビジョンのコア部分の議論が重要。

ビジョンのコア部分を絞り込み、コンセプトを設定。

§ 新しい邦とは。

§ ガバナンスのあり方とは。

§ 地域の自立的なマネジメントのあり方とは。

ビジョンのコンセプトの下に将来像を設定。

将来像の実現に向けた各論を検討。

#### 【少子高齢化】

人口減少、少子高齢化は、経済を予測する上で重要な要素。

・ 沖縄では人口流出が続いており、県人口推計より早くピークを迎える可能性あり。

§ 東京の人口吸収力が上昇する可能性。

人口減少局面において、どのような発想で沖縄を経営していくか。

・ 創造的縮小という視点からどのような価値観を構築していくか。

・ 人口の一極集中が進む中で、どう対応していくか。

§ 人口密度を減らす取り組み etc

・ アジアから人を受け入れて、人口減少を食い止める方策の検討。

・ 人口の増減に影響を受けにくい地域の形成。

§ アジアの経済発展にどう貢献していくか、という視点から交流人口を検討。

#### 【地方分権と道州制】

ビジョンにおいて、地方分権・道州制はどのように反映させるか。

・ 地方分権・道州制は、時代潮流として整理。

・ 財政依存度の高さなど財政構造上の課題は、現状の課題認識として整理し、これを踏まえて、経済的自立および精神的自立への方策を検討。

## 【アジアの経済発展とグローバル化】

日本にとっての沖縄の重要性とは。

安全保障の根幹を支えてきた（今も支えている）地域であること。

東西約 1000km の広大な海域、国土に準ずる排他的経済水域（EEZ）を確保するエリア（海域島嶼圏）であること。

東アジア共同体など、アジアは更に相互依存・連携等の結びつきを強めていく。

沖縄（OKINAWA）は日本のアジア戦略に極めて重要な場所 / 存在であること。

アジアの中で、沖縄の立ち位置をどう考えるか。

- ・地政学的なビジョンが必要。

§ 日本本土とアジアの結び目となって一定の役割を果たせる位置。

国際貢献・協力分野での国際センター的機能、那覇空港の国際貨物航空ハブ etc

- ・「アジアとの交流拠点」ではなく、「東アジア圏内の拠点」としてはどうか。

- ・沖縄の「ソフトパワー」をどう活かすか。

健康長寿、安全暗視、快適環境、生活、文化 etc

アジア・世界に対して、沖縄はどう貢献するか。

- ・これまでの格差是正という公共投資から、新しい公共プロジェクトとしての国際貢献への転換。

貢献可能分野 = 環境、健康、防災、防疫、人間の安全保障、海洋の安全・管理 etc

- ・日本の国益にも資する、軍事ではない新たな「国際公共財」としての貢献

沖縄科学技術大学院大学、JICA 沖縄国際センター etc

ビジョンでは、自立という柱に加えて、相互扶助とか国際貢献など、相互依存して生きていくこと、沖縄のゆいまー精神も重要な視点。

ビジョンの中で公共交通ネットワーク、人的交流ネットワークのあり方を強調すべき。

- ・沖縄は閉鎖的な社会であり、より人的なネットワークを構築すべき。
- ・沖縄はもっと中国など外の資源を活用する必要がある、ネットワークを構築すべき。

## 【地域社会と安全安心】

ローカル・ルールとして、市場原理と制御のバランスがいい仕組みを構築すべき。

- ・環境分野も、福祉分野も市場に任せ過ぎず、まず、理念があって、その理念の実現に向けて制度があるべき。

人材を含む地域資源をどう活用するかが重要。

企業の地域貢献に対する社会評価をどう確立するかが重要。

## 【教育と人材育成】

2030 年は、グローバルな発想の人材、地域に対する誇りを持った人材を活かせる社会であるべき。

- ・与那国島での人材育成の視点から、教育と国境との立地特性を活用した取り組み。
  - §台湾に進学させるなど中国語が話せる人材の育成。
  - §国境地域においてビジネス面で活躍する人材の育成。
  - §アジアとの友好等に寄与する人材の育成。

企業が育つということは人材が育つということ、地域が発展するということはそこに住む家族が豊かになるということ、このことを共有できるリーダーを多く育成すべき。

- ・キャリア教育が必要。
  - §子供の頃から一貫したキャリア教育を、沖縄という島しょ県だからこそ、モデルケースとしてやるべき。

## 【経済・産業】

豊かさとは何か

- ・経済的な豊かさのため、どう交流人口を拡大するか。
- ・人口減少化局面を考えたとき、創造的縮小をしても、幸福を感じるという考え、縮小は悲観的なことではないという考えもあり。
- ・国民総幸福量（GNH）等、沖縄の環境を高める新たな指標があってもいい。
  - §ビジョンの指標のひとつとして、国民総幸福量（GNH）を取り入れてはどうか。

## 【環境とエネルギー】

### [環境]

沖縄はキャリング・キャパシティ（許容範囲）を考え、環境フロンティアになるべき。国際的な環境ビジネスのモデル地域をどう形成するか。

- ・産業振興の面で環境を考慮する際、静脈、動脈産業の一体化が必要。
- ・「環境問題 = ゴミ」ではなく、産業として考えるべき。
  - §環境を考える際、道徳面だけでなく、産業面から環境を考えることが必要。
- ・廃棄物資源の島内循環による環境ビジネスの創出。

資源循環型の経済社会をどう形成するか。

南に開かれた技術立県をどう構築するか。

- ・地球規模での温暖化防止への貢献。
- ・緑にあふれた沖縄の形成。

## [ エネルギー ]

新エネルギーの導入、省エネ技術の開発による環境ビジネスの創出。

## 【離島】

海の安全確保と、ゾーン（国境）を管理することが重要。

国境離島を含む広大な海域をどう考えるか。

- ・ 離島の振興と海域の管理
- ・ 外海離島の位置付けの抜本的転換
- ・ 国土の末端（辺境）から領海・排他的経済水域（EEZ）を構成する国土の骨格
- ・ 海域全体で考えるべき総合交通体系（国際交通ネットワークを含む）

## 【在沖米軍基地】

### [ 基地の存在 ]

基地の問題は、市場原理とは異なり、経済が自己増殖せず、発展が限定されること。

2030年の沖縄を考える上で、在沖米軍基地の返還状況をどう考えるか。

- ・ 2030年に、すべての基地が返還されていないのであれば、どう向き合うかを検討すべき。
  - § 基地からの所得を株式化し、財産を運用管理する仕組みを検討してはどうか。
  - § 基地を平和目的に活用することも検討が必要。
- ・ 基地は縮小していくと想定され、2030年の基地跡地をどういう街にしたいかという議論をすることが重要。

基地は、日本の国益を軍事面で担保し続けた場所であり、返還から跡地利用まで国が全責任を持つべき。

- ・ 国として、基地が安全保障の面から必要ということであれば、応分の負担を求めるなど県の考え方を提示することが必要。
- ・ 跡地利用のためには、事業主体と財源の問題があり、限界のある既存制度ではなく、特別立法等が必要。

### [ 基地返還跡地 ]

基地跡地の利用は、ビジョンの大きな構成要素のひとつであり、それなりの考え方を打ち出すべき。

- ・ かつて沖縄にあった空間思想の復活。
- ・ あるべき県土の姿を取り戻すという意味合い。
- ・ 普天間跡地を国有公園（平和を象徴する公園 etc）にしてはどうか。

#### 基地跡地利用上の問題点

- ・跡地利用のロードマップがなく、跡地利用には10年以上を要するのが現状。
- ・都市計画、まちづくりへ移行する際、国、県、土地所有者の全体をまとめる指揮者が不在。

#### 【まちづくり】

まちづくりは、市場任せではなく、ルールづくりが必要。

- ・沖縄の景観、風景を守るためのモデルケースを提示。
- ・沖縄に適応した都市計画を推進すべき。
- ・トップダウンの都市計画づくりから、住民との協働による計画づくりへの転換。

まちづくりのコンセプトは、次世代を見据えたユニバーサル・デザイン、サステイナブル・デザイン。

ビジョンの視点として、「景観10年」「風景100年」「風土1000年」を念頭に置いた都市づくりが重要。

- ・時間が経過しても価値が劣化しない都市づくり。

§ 持続的な資産形成

§ 人間尊重の思想

§ 時間軸を考慮した空間

## 21世紀ビジョン重点課題と解決方針等

### 【ビジョンの理念】

(課題)

21世紀ビジョンの理念をどのように考えるべきか。

(解決方針等)

20年後の沖縄を見通すことが難しいからこそ、変えてはならないもの、目指すべものは何かを明らかにし、理念を県民全体で共有するとともに、理想と現実を兼ね備えた実現可能なビジョンとする。

### 【少子高齢化】

(課題)

人口減少局面における社会の姿はどうあるべきか

(解決方針等)

人口減少局面では経済規模は縮小することになるが、無駄をそぎ落とし、経済が縮小しても幸福を感じる、創造的縮小という価値観で沖縄をどう構築していくか検討する。

### 【アジアの経済発展とグローバル化】

(課題)

アジアの経済発展を沖縄の発展にどのように活用するのか。

(解決方針等)

日本にとっての沖縄の重要性を整理するとともに、沖縄の優位性を発揮できる分野への積極的な参入や地理的特性の活用等により、アジア・太平洋地域の中でなくてはならない存在となる。

(課題)

グローバル化にどのように対応すべきか。

(解決方針等)

日本本土とアジア・太平洋地域の結び目となって、アジアとの人的・物的交流ネットワークの構築や、世界規模の課題解決に向けた国際貢献・協力拠点の形成等を図る。

### 【地域社会と安全安心】

(課題)

地域社会をどのように再生すべきか。

(解決方針等)

小学校を単位とした地域情報ネットワークを構築し、情報の共有化を図るとともに、地域の人材の有効活用や住民の協働による地域づくりを通して、世代間の交流を深め、コミュニティの再生を図る。

## 【人材育成】

(課題)

将来の沖縄にはどのような人材が必要か。

(解決方針等)

沖縄の発展に必要な人材育成の方向性を明らかにした上で、語学に力点を置いた教育システムの構築や、沖縄らしい個性を持った人間の形成を図るとともに、アジアの教育機関を活用した人材育成や独自の奨学金制度等を検討する。

## 【経済・産業】

(課題)

豊かさとは何か。

(解決方針等)

物質的豊かさの指標であるG N Pに代わる指標として、生活の質や福祉の充実度などを含め、国民の幸福度を測る国民総幸福量(G N H)のような指標を検討する。

(課題)

環境と経済の好循環をどのように構築していくか。

(解決方針等)

新エネルギー・次世代エネルギーの導入や省エネ、リサイクル等に関する技術革新を進め、動脈産業と静脈産業の一体化を図り、廃棄物資源の島内循環による環境ビジネスの創出を検討する。

## 【環境とエネルギー】

(課題)

持続可能な循環型社会をどのように形成すべきか。

(解決方針等)

ゾーニングやキャリングキャパシティ、保全のためのルール等に加え、県民の意識改革を図り、先進的な島嶼型環境共生・循環型社会モデルを構築する。

## 【離島】

(課題)

国境離島を含む広大な海域をどう考えるか。

(解決方針等)

排他的経済水域(E E Z)を確保するエリアであること及び豊富な海洋資源を有することを踏まえ、日本の国益を担う地域として、国の責務に基づき対応すべき内容等を検討する。

## 【在沖米軍基地】

(課題)

県土の発展のために、返還跡地等をどのように活用すべきか。

(解決方針等)

アジアの経済発展やグローバル化の進展に対応した産業振興を図るための空間として活用するとともに、居住空間の確保や交通体系の再編整備等を検討する。

## 【まちづくり】

(課題)

都市計画を含む今後のまちづくりのあり方についてどう考えるべきか。

(解決方針等)

時間とともに価値が高まるようなまちづくりを進めるとともに、沖縄全島が都市化しているという認識に立ち、快適性や安全性などの観点も含め県民とともに考えていく。



## 沖縄21世紀ビジョンにおいて議論すべき「重点課題」

(委) 委員より出された重点課題      事務局が設定した重点課題

### 【ビジョンの理念】

(委) 21世紀ビジョンの理念をどのように考えるべきか。

### 【少子高齢化】

少子高齢化局面における社会保障はどうあるべきか。

人口減少局面における社会の姿はどうあるべきか。

### 【地方分権と道州制】

自立した財政構造をどう構築すべきか。

分権社会において市町村はどのように対応すべきか。

住民と行政との関係はどうあるべきか。

### 【アジアの経済発展とグローバル化】

(委) 日本にとっての沖縄の重要性をどのように考えるべきか。

(委) 「アジアとの交流拠点」ではなく、「東アジア圏内の拠点」としてはどうか。

(委) アジア、太平洋諸国等のニーズや国際的課題に対する貢献をどう考えるか。

アジアの経済発展を沖縄の発展にどのように活用すべきか。

### 【地域社会と安全安心】

地域社会をどのように再生すべきか。

(委) 人材を含む地域資源をどう活用するか。

地域のネットワークをどのように形成すべきか。

安全・安心な暮らしをどのように確保すべきか。

(委) ローカルルールとして、市場原理と制御のバランスがよい仕組みをどう構築するか。

## 【食】

「健康長寿の沖縄」を、どのように復活するか。

## 【人材育成】

将来の沖縄には、どのような人間(人材)が必要か。

(委)グローバルな発想や地域に誇りを持った人材が活かせる社会をどのように形成するか。

地域社会における教育はどうあるべきか。

## 【経済・産業】

(委)豊かさとは何か。

環境と経済の好循環をどのように構築すべきか。

「経済的自立」とはどのような状態か。

経済において、何を指標として設定すべきか。

沖縄の産業構造についてどう考えるべきか。

## 【環境とエネルギー】

持続可能な循環型社会をどのように形成すべきか。

(委)国際的な環境ビジネスモデル地域をどう形成するか。

(委)南に開かれた技術立県をどう構築するか。

島しょ地域のエネルギーをどのように確保すべきか。

## 【離島】

(委)国境離島を含む広大な海域をどう考えるか。

離島振興を国の責務として、どう位置づけるべきか。

離島の交通問題をどう考えるべきか。

## 【在沖米軍基地】

2030年時点(想定年)の在沖米軍基地の状態を、どのように想定すべきか。

日本の安全保障政策上、沖縄はどのような役割を果たすべきか。

県土の発展のために、返還跡地等をどのように活用すべきか。

重点課題と将来像との関係

分野 将来像(仮)等	少子高齢化	地方分権と道州制	アジア経済発展とグローバル化	地域社会と安全安心	食	人材育成	経済・産業	環境とエネルギー	離島	在沖米軍基地
ビジョンの理念	(委) 21世紀ビジョンの理念をどのように考えるべきか。									
美しい自然と沖縄らしい風景に囲まれた島								環境と経済の好循環をどのように構築すべきか。	持続可能な循環型社会をどのように形成すべきか。	
歴史、伝統・文化を尊重する安全・安心な島	少子高齢化局面における社会保障はどうあるべきか。	住民と行政との関係はどうあるべきか。		地域社会をどのように再生すべきか。  安全・安心な暮らしをどのように確保すべきか。	「健康長寿の沖縄」を、どのように復活するか。	(委) グローバルな発想や地域に誇りを持った人材が活かせる社会をどのように形成するか。  地域社会における教育はどうあるべきか。			離島振興を国の責務として、どのように位置づけるべきか。  離島の交通問題をどう考えるべきか。	
希望と活力にあふれる豊かな島	人口減少局面における社会の姿はどうあるべきか。	自立した財政構造をどう構築すべきか。  分権社会において市町村はどのように対応すべきか。	アジアの経済発展を沖縄の発展にどのように活用すべきか。  (委) 「アジアとの交流拠点」ではなく、「東アジア圏内の拠点」としてはどうか。	(委) 人材を含む地域資源をどう活用するか。  (委) ローカルルールとして、市場原理と制御のバランスがよい仕組みをどう構築するか。  地域のネットワークをどのように形成すべきか。			(委) 豊かさとは何か。 「経済的自立」とはどのような状態か。  経済において、何を指標として設定すべきか。  沖縄の産業構造についてどう考えるべきか。	(委) 国際的な環境ビジネスモデル地域をどう形成するか。  島しょ地域のエネルギーを、どのように確保すべきか。	(委) 国境離島を含む広大な海域をどう考えるか。	県土の発展のために、米軍基地の返還跡地をどのように活用すべきか。
世界に開かれた交流と共生の島			(委) 日本にとっての沖縄の重要性をどのように考えるべきか  (委) アジア、太平洋諸国等のニーズや国際的課題に対する貢献をどう考えるべきか。					(委) 南に開かれた技術立県をどう構築するか。		2030年の基地の状態を、どのように想定すべきか。  日本の安全保障政策上、沖縄はどのような役割を果たすべきか。
多様な個性と能力が発揮できる島						将来の沖縄には、どのような人間(人材)が必要なのか。				

## 「沖縄21世紀ビジョン(仮称)」における課題設定図

## 【少子高齢化】

少子高齢化局面での社会保障は？  
人口減少局面での社会の姿は？  
 将来の沖縄の人口についてどう考える？

## 【地方分権と道州制】

自立した財政構造をどう構築？  
分権社会において市町村はどう対応？  
住民と行政との関係は？

## 【アジアの経済発展とグローバル化】

アジアの経済発展を沖縄の発展にどう活用？  
グローバル化にどう対応？  
 アジアの安定・平和にどう貢献？

## 【地域社会と安全安心】

- (1) 地域社会の再生とネットワークの形成  
地域社会をどう再生？  
 地域資源をどう活用？  
地域ネットワークをどう形成？  
 地域の交通ネットワークをどう確保？
- (2) 安全・安心な暮らしの確保  
安全・安心な暮らしをどう確保？  
 安全を共有するシステムをどう構築？  
 安心が感じられる信頼関係をどう構築？

## 【食】

- (1) 食をめぐる情勢  
 地球規模での食の問題をどうする？  
 日本の食の問題にどう貢献？  
「健康長寿の沖縄」をどう復活？
- (2) 食の生産面及び消費面での課題  
 沖縄の食の生産面をどうする？  
 沖縄の食の消費面をどうする？
- (3) 食の環境保全面及びエネルギー面での課題  
 農山漁村の風景をどう保全？  
 食料の大量廃棄をどうする？  
 食とバイオマスの競合をどうする？

## 【人材育成】

- (1) 人間形成  
将来の沖縄に必要な人間(人材)とは？  
 社会環境の変化に対応した教育とは？
- (2) 学校教育  
 県外との教育格差をどうする？  
 県内での教育機会の格差をどうする？  
 学校教育の目指す方向と教育システムとは？
- (3) 職能教育  
 将来の沖縄に必要な産業と人材とは？
- (4) 地域社会・家庭教育  
 労働に対する意識づけにどう取り組む？  
地域社会における教育とは？

## 【経済・産業】

- (1) 経済  
環境と経済の好循環をどう構築？  
「経済的自立」とはどのような状態？  
経済で何を指標として設定すべき？  
 経済成長を加速するためにどうする？  
 効果的な資本投資とは？  
 県内一律にユニバーサルサービスを実現？
- (2) 産業  
沖縄の産業構造をどうする？  
 効果的な産業振興のための体制づくりとは？  
 産業基盤の格差をどうする？

## 【環境とエネルギー】

- (1) 環境  
 沖縄の環境特性を踏まえ、どう保全？  
 沖縄の独特の景観をどうする？  
持続可能な循環型社会をどう形成？  
 循環型社会をどう形成？  
 沖縄として、地球温暖化問題にどう対応？
- (2) 資源エネルギー  
 沖縄として、化石エネルギーの枯渇、中東依存にどう対応？  
 沖縄として、化石燃料の温室効果ガス排出にどう対応？  
島しょ地域のエネルギーをどう確保？  
 エネルギーの地産地消をどうする？

## 【離島】

- (1) 沖縄の離島の現況  
 離島の振興をどうする？  
 行財政の構造的な問題をどうする？  
 離島に対する国や県の役割をどうする？  
 離島地域の社会変化にどう対応？  
離島の交通問題をどう考えるべき？  
 離島の経済的特性にどう対応？
- (2) 国策としての位置づけ  
離島振興を国の責務としてどう位置づけ？

## 【在沖米軍基地】

- (1) 米軍基地の整理縮小  
2030年時点の在沖米軍基地の状態をどう想定？  
日本の安全保障政策上、沖縄の役割は？  
 米軍基地の整理縮小に伴う経済的影響をどうする？  
 道州制導入後の安全保障・外交防衛上の、沖縄の立場はどうか？
- (2) 返還跡地等の活用  
県土の発展のために、返還跡地等をどう活用？  
 新たな産業振興を図るために、どう活用？

## 「沖縄21世紀ビジョン(仮称)」における課題設定

## 【少子高齢化】

- 少子高齢化局面における社会保障はどうあるべきか。
- 人口減少局面における社会の姿はどうあるべきか。
- 2030年時点における沖縄の人口について、どのように考えるべきか。
- 2030年時点における沖縄の人口を設定すべきか。
- 圏域別の人口を設定すべきか。
- 離島の人口を設定すべきか。
- 沖縄への移住者に対するスタンスはどうあるべきか。
- 高齢者の受け入れをどう考えるべきか。
- 外国人の受け入れをどう考えるべきか。

## 【地方分権と道州制】

- 自立した財政構造をどう構築すべきか。
- 国に依存した財政構造をどう改善するか。
- 県経済の高い財政依存度をどう改善するか。
- 分権社会において市町村はどのように対応すべきか。
- 今後の市町村規模はどうあるべきか。
- 離島など小規模町村はどう対応すべきか。
- 住民と行政との関係はどうあるべきか。

## 【アジアの経済発展とグローバル化】

- アジアの経済発展を沖縄の発展にどのように活用すべきか。
- グローバル化に対して、どのように対応すべきか。
- 積極的にグローバル化を図る分野はどこか。
- グローバル化から守るべき分野はどこか。
- グローバル化に伴う負の要素に、どう対応すべきか。
- 沖縄科学技術大学院大学、JICA沖縄国際センターetc
- アジアの安定・平和に、どのように貢献すべきか。
- アジアの安定・平和への貢献の中で、在沖米軍基地をどうみるか。
- アジアの安定・平和に向けた新たな貢献分野とは何か。

## 【地域社会と安全安心】

### (1) 地域社会の再生とネットワークの形成

地域社会を、どのように再生すべきか。

コミュニティビジネスの視点を、どう活用できるか。

地域マネーの考え方を、どう活用できるか。

地域資源の活用について、どのように考えるべきか。

地域資源(歴史、文化etc)を、どう発掘すべきか。

地域の情報を、どう共有すべきか。

地域の人材を、どう発掘すべきか。

地域のネットワークを、どのように形成すべきか。

情報通信ネットワークをどう活用すべきか。

地域の交通ネットワークをどう確保すべきか。

### (2) 安全・安心な暮らしの確保

安全・安心な暮らしを、どのように確保すべきか。

安全を共有するシステムを、どのように作るべきか。

安心が感じられる信頼関係を、どのように構築すべきか。

## 【食】

### (1) 食をめぐる情勢

沖縄として、地球規模での食の問題について、どのように考えるべきか。(食料不足、フードマイレージetc)

独特の気候が日本の食に、どのように貢献できるか。(輸入食材の信頼失墜、食料自給率の低下etc)

「健康長寿の沖縄」を、どのように復活するか。

### (2) 食の生産面及び消費面での課題

沖縄の食の生産面について、どのように考えるべきか。

農業の担い手の減少と高齢化を、どう解消するか。

都市化の進展等による耕地面積の減少を、どう考えるべきか。

第一次産業の魅力を、どう高めるべきか。

耕作地の効率性を、どう向上させるか。(遊休地の有効利用etc)

沖縄の食の消費面について、どのように考えるべきか。

食育・消費者教育を、どのように進めるか。

地産地消を、どのように進めるか。

### (3) 食の環境保全面及びエネルギー面での課題

農産漁村の風景を、どのように保全すべきか。

農山漁村の多面的役割を、どう考えるか。(温室効果ガス吸収機能、大気浄化機能、水源涵養機能etc)

食料の大量廃棄を、どのように考えるべきか。

食料とバイオマスの競合問題を、どのように考えるべきか。

バイオエタノールについて、どう考えるべきか。

## 【人材育成】

### (1) 人間形成

将来の沖縄には、どのような人間(人材)が必要か。

沖縄の目指すべき方向性をどうすべきか

社会環境が変化する中、それに対応すべき教育とはどうあるべきか。

学校教育、職能教育、地域・家庭教育の役割を、どう考えるべきか。

### (2) 学校教育

県外との教育格差について、どのように考えるべきか。

県外との教育格差(学力格差)を、どうすべきか。

県外との大学等進学率の格差を、どうすべきか。

県内での教育機会の格差を、どのように解消すべきか。

離島における高校進学時の教育費負担等を、どう考えるか。

教育における公的負担割合は、どうすべきか。(例:北欧型の高福祉社会)

学校教育の目指すべき方向性をどうするか。そのためには、どのような教育システムが必要なのか。

文部科学省の全国一律の教育システムを、どう考えるか。

### (3) 職能教育

将来の沖縄には、どのような産業と人材が必要か。

沖縄の目指すべき産業を支える人材を、どう育成していくか。

観光・情報・金融分野等への人材不足及び人材育成と雇用のミスマッチに、どう対応すべきか。

### (4) 地域社会・家庭教育

労働に対する意識づけに、どのように取り組んでいくか。

子どもの頃から労働に対する意識づけと目標を設定することは必要か。

親の子離れに対する意識づけは必要か。

地域社会における教育は、どうあるべきか。

## 【経済・産業】

### (1) 経済

環境と経済の好循環を、どのように構築すべきか。

開発と環境保全のバランスを、どう考えるべきか。

自然海岸の減少を、どう考えるべきか。

「経済的自立」とは、どのような状態か。

「自立」とはどのような状態か。いつまでに実現するのか。

「財政的自立」とはどのような状態か。

経済において、何を指標として設定すべきか。

経済成長(GDPの増加)を目指すべきか。

国民総幸福量のような生活実感に直結する指標を、目標値とすべきか。

経済成長を加速するためには、どのような取り組みが必要か。

労働生産性をどのように高めるべきか。

人材の質の向上をどのように図るべきか。

グローバル化をどう活用すべきか。

労働投入を増やすためには、どうすればいいか。

若者を労働市場に参加させるにはどうすればいいか。

女性、高齢者を労働市場に参加させるにはどうすればいいか。

雇用のミスマッチをどのように解消すべきか。

効果的な資本投資をどう考えるか。

効果的な社会資本投資及び民間資本投資とは、どのようなものか。

県内資本と県外資本を区別して考えるべきか。

県内一律にユニバーサルサービスを実現すべきか。

離島、過疎地域で実現するための追加的コストは、誰がどのように負担すべきか。

### (2) 産業

沖縄の産業構造について、どのように考えるべきか。

「ザル経済」の構造をどう解消すべきか。

将来の沖縄において、どのような産業を振興すべきか。

外需産業、外貨獲得のためにはどうすべきか。

効果的な産業振興のための体制づくりはどうあるべきか。

産業基盤の格差をどう考えるか。(用地、水、電力etc)



## 【環境とエネルギー】

### (1) 環境

沖縄の環境特性を踏まえて、どのように保全すべきか。

亜熱帯・海洋性気候に属する島嶼県という「脆弱性」に、どう配慮すべきか。

東洋のガラパゴスと称される「生物の多様性」を、どう守るべきか。

沖縄の独特の景観を、どのように考えるべきか。

琉球王朝時代の海外との交易等から培われてきた独特の景観・まちなみを、どう守るべきか。

戦後の米軍統治下時代に形成された独特の景観・まちなみを、どう守るべきか。

景観の保全を、どう考えるべきか。

景観訴訟の問題をどう考えるか・・・石垣島のマンション、西表島のリゾートホテルetc  
持続可能な循環型社会を、どのように形成すべきか。

沖縄の島しょ性を考慮した自立型・資源循環型社会を、どう実現するか。

ゴミの減量化・リサイクルを、どう考えるべきか。

漂流・漂着ゴミなど国際的な問題を、どう考えるべきか。

沖縄として、地球温暖化問題について、どのように考えるべきか。

温室効果ガス排出量の抑制を、どう考えるべきか。

自動車保有台数の多さを、どう考えるべきか。

サンゴの白化・死滅を、どう考えるべきか。

### (2) 資源エネルギー

沖縄として、化石エネルギーの枯渇に、どのように対応すべきか。

沖縄として、エネルギー資源の中東依存度の高まりに、どのように対応すべきか。

代替エネルギー(原子力、天然ガス、石炭etc)の導入を、どう考えるべきか。

脱化石燃料の取り組みについて、どう考えるべきか。

(バイオエタノール、ハイブリッド車、電気自動車、バイオマスタウン、太陽光発電etc)

沖縄として、化石燃料による温室効果ガス排出に、どのように対応すべきか。

新エネルギーへの転換・普及を、どう促進すべきか。(太陽光、風力、バイオマス、地熱、水力etc)

島しょ地域のエネルギーを、どのように確保すべきか。

エネルギー(新エネルギー)の地産地消について、どのように考えるべきか。

エネルギー自給率の上昇について、どう考えるべきか。

## 【離島】

### (1) 沖縄における離島の現況

離島の振興を、どのように考えるべきか。

離島の特性を、どう分類すべきか。(本島周辺離島、先島・先島周辺離島、遠隔離島、国境離島etc)

特性を踏まえた離島の振興を、どう考えるべきか。

離島における行財政の構造的な問題を、どのように考えるべきか。

低い自主財源比率を、どう考えるべきか。

高コストな行政サービスを、どう考えるべきか。(教育、保健医療、交通、生活基盤etc)

離島の行財政に対する国や県の役割を、どのように考えるべきか。

財政調整制度の構築を、どう考えるべきか。

事務権限を限定し、県等が補完する特例町村制度を導入すべきか。

離島地域の社会変化に、どのように対応すべきか。

離島における人口減少(八重山圏域の一部を除く)を、どう考えるべきか。

離島における若年層流出と高齢化、過疎化の進行を、どう考えるべきか。

離島によっては高校がない等、様々な格差について、どう考えるべきか。

島外人材の活用を、どう考えるべきか。

離島の交通問題を、どのように考えるべきか。

離島の海路・空路等を、どう確保すべきか。

離島の経済的特性に、どのように対応すべきか。

(規模の不経済性、資源の狭わい性、市場の狭小性、慢性的な対外収支の赤字、  
高い財政依存度、モノカルチャー的産業構造)

### (2) 国策としての位置づけ - 排他的経済水域(EEZ)と離島振興

離島振興を国の責務として、どのように位置づけるべきか。

「国土形成計画」および「海洋基本法」での離島の位置付けを、どう活用すべきか。

離島間の交通アクセスの確保は、国の責務として位置づけるべきか。

離島振興および過疎対策は、国の責務として位置づけるべきか。

【在沖米軍基地】

(1) 米軍基地の整理縮小

2030年時点(想定年)の在沖米軍基地の状態を、どのように想定すべきか。

全面返還された状態を想定すべきか。

嘉手納基地より南の基地返還がされた状態を想定すべきか。

日本の安全保障政策上、沖縄はどのような役割を果たすべきか。

今後も、相応の基地負担を担うべきか。

これまでとは異なる役割を果たすことは可能か。

基地以外の面で、安全保障環境の向上にどのように寄与すべきか。どのような機能を持つべきか。

米軍基地の整理縮小に伴う経済的影響について、どのように考えるべきか。

基地返還に伴う経済上の変化を吸収して余りある産業の創出のためには、どうすべきか。

財・サービスの提供機会の減少を補うためには、どう取り組むべきか。

軍雇用者の減少を補うためには、どう取り組むべきか。

軍用地料の減少を補うためには、どう取り組むべきか。

道州制導入後の安全保障・外交防衛についての、沖縄の立場をどのように考えるべきか。

(2) 返還跡地等の活用

県土の発展のために、返還跡地等をどのように活用すべきか。

米軍基地があるが故の、県土利用上の課題は何か。(交通体系、居住空間等の問題)

アジアの経済発展とグローバル化の進展に対応した産業振興を図るための空間として、どう活用すべきか。